森の劇場プロジェクト 2020　活動説明会

2020．6/27 日（土）　13：30～15：30　津市白山町大三公民館　資料作成：長野

（＊4 月 25 日（土）を延期して実施）

● はじめに　●

ようこそ(*^-^*)！参加いただきありがとうございます。　大まかに本日の活動説明会の趣旨を簡単にまとめておきます。

◆こんなふうに森の劇場プロジェクトは誕生しました。◆

・2012 年に「劇場法」という、時代に合った活用していこうね！というゆるい法律ができました。

↓

・2013 年

津市は、自治体の特色ある文化政策を持ちたい！と考え、
いろいろ情報を集めていました。
稼働率の低い白山総文について、近隣住民で舞台創作活動を続けていた
長野に意見を求められました。

→ 長野、「まず、責任を持って腰を据えて関われる、
劇場が大好きな人が職員であるべきです。
そうすれば自然に愛される場所になるでしょう。
← それは地域住民でも学びながらできることでしょう。」

・２０１４年　津市民文化祭特別研究事業を委託　→　受託（市民グループ：森の劇場育成プロジェクトできる。）

ちょっとマンネリになっている津市民文化祭を題材に、どんな素敵な
使い方（白山総文）ができるのか提言してみてください。

多くの実験事業を実施、各回アンケートや
座談会から情報収集。実験芸術祭開催

↓

・２０１５年　受理　←　「地域に生きる劇場活用」提言書提出

↓

・２０１６年　津市文化創造事業という市民参画・官民協働事業が立ち上がる。委託。　→　受託（森の劇場プロジェクトとして活動スタート）

・ ↓
・ 継
・ 続
・ ↓
・ ↓

文化政策を担う（文化・芸術活動を介し、文化公共施設を活かして行う地域づくり。）地域社会活動。
メンバーが地域社会の課題を共有し、課題解決につながる独自の企画を生みだし運営。
子どものためのプログラム、大人のためのプログラム、地域に活きる芸術祭、活動勉強会といった見える活動と、
その先に描く、地域の中で社会的役割を果たす楽しさを周知し、未来に貢献しようという目に見えない活動は循環を始めました。

・２０２０年　４月１日に NPO 法人格取得。
４月９日に、津市文化創造事業、令和に年度委託契約成立。
４ 月 22 日に、津市文化創造事業は、新型コロナウィルス感染拡大による事業中止となり、森劇プロジェクトの独自の活動を行うことにする。

◆活動を続けてくる中で、実感すること。◆

・文化や芸術の力を政策に活用しなければならないような、地球の環境（人間の在り方も含む）は危ない状況にある。
・地球環境の一部として、死ぬまで社会的存在で居つづける努力をすることはきっとたのしい、そして上記の問題にほんの少し役立てる。

◆森の劇場プロジェクトの個性◆

・一人ひとりが自分にできる方法で長い目で行う活動。
・立場や肩書を置いておいて、身一つでたのしむことを練習するような活動。
・特別な能力や活動できる時間の長さより、興味がある・面白そう・やってみたいといった感性が活動をたのしむのに優先すると思う。
・半社会貢献活動と名付け、有償ボランティア活動と完全奉仕活動がある。仕事ではなく道楽という捉え方。
・「お金」という経済効果は生みだしませんが、「幸福感の連鎖」という公益性の高い経済効果は絶大な活動。＝　地域家族といった未来像

◆今日の説明会で、お願いしたいこと。◆

① 森劇プロジェクトが、どんなことを目指しているかを知ってほしい。
② なんとなく賛同できる内容があれば、それぞれの良い方法で参加してみてください、ゆっくり大きな問題に実際に関わっていきたいです。

● 今日の予定　●・・・・・・ところところでマインドフルネスリラクゼーション体操で気分転換しながら(*^-^*)♪

【1】 森の劇場プロジェクト活動の目的・目標・理念
【2】 森の劇場プロジェクトの歩み
【3】 2020 年度　活動計画
【4】 関わり方
【5】 その他

【1】 森の劇場プロジェクト活動の目的・目標・理念　　（〔注意〕2020 年までの活動から、NPO 法人となるにあたり文言を新しくしています。）

（目的）

第３条　この法人は、加速する技術革新による人間力の低下や、自然環境破壊に拍車がかかる現代、津市文化創造事業の中で、「津市総合計画」「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」「文化芸術基本法」「ＳＤＧｓ」を踏まえ、公共文化施設の中に多世代多くの人が利他的役割を循環することのできる仕組みをつくり、集う人は感受性や審美眼といった生きる力を養い、より良い社会を探求する喜びを共有しながら、それぞれの人権を尊重することと自然と共存することをたのしめる、健康で幸福感の高い地域づくり、人づくりを通して、「笑顔あふれ幸せに暮らせる津市」を実現することに寄与することを目的とする。

最初から官民協働のスタイルだったことがこの目的の文言の個性ともいえます。
『地球規模での危機の時代に入り、産も学も官も民も「笑い合える」という公益性にそれぞれの役割を果たしていきたいですね。
この活動の中で私たち民は、公共文化施設を利用して学び合い行動できる空間をつくります。』を具体的な言葉を入れて書いています。

（目標）

第５８条　この法人は、産学官民の関わりの中、市民が主体となってたのしみながら利他力を活かすことにより、地域の課題を解決する能力を持ち、魅力的な地域色を生みだすことのできる、社会包摂型公共文化施設を実現することに目標を定めて活動する。

2012 年に劇場法が制定されて出てきた言葉“社会包摂機能を果たす劇場”。このころから社会の分断、経済格差、子どもの貧困、、、、といった言葉で人間社会の問題があらわされるようになってきます。「ハコモノとして乱立した公共劇場。建ってしまった劇場を、芸術の殿堂といった活用の仕方に加え、社会問題を解決できる劇場にしていこう。」という考え方。拠点とした津市白山総合文化センターは、特にそのことに着目すべきだと考えました。

（理念）

第５７条　この法人は、「愛と平和」に満ちた持続可能な希望と活力あふれる未来づくりに貢献し続けることを理念とする。

2019 年までは、
「経済中心、効率重視の現代社会が抱える課題を念頭に置き、“かつての社会”の古き良き部分を見直し、社会のバランスを整えることを推進していく。」
という言葉で表現していました。　2020 年法人格を取得するのを切掛けに、理念を地球規模で、目標を活動を生みだせる空間づくり、目的を具体的な地域の在り方や人間関係をあらわすことにしました。　　また、これまでの活動の中、何か問題にぶつかったときそれを救ってくれる内容が“愛ってどんなもんだ？平和って誰がつくるのか？”といったことだったという理由もあります。
すなわち、永遠に紡いでいく必要があるような活動だろうということです。

（ちょっと雑談））））））

コロナ休暇は、森劇活動のちょうど節目となる 2020 年、これまでを振り返る良い機会になりました。
わたしは長くバレエの教室を運営（1989 年～）してきました。教室を開設して間もない時期の発表会（1994 年）で「風の谷のナウシカ」を創作バレエとして上演しています。　そして 14 年後に再演しました。幼い子どものナレーションで幕が開くのですが、久しぶりにこのナレーションを聞いて、、、、、、ずいぶん前から私の中に社会的不安があり、今そのことに携わらせてもらっているのかもしれない、と思いました。幼い凛とした透き通った声が希望で結ぶナレーションに勇気をもらったりしました。

ここは千年後の地球、人々が科学の発達により自然を壊してしまい地球は腐海におおわれています。
腐海というのは毒のガスを出す菌が集まってできた森、そこには王蟲という大きな大きな虫が住んでいて人が入ることをゆるしません。
この腐海を焼き払い世界を自分のものにしようとする悪者がこの時代にもあらわれます。
でも腐海を焼き払ってしまうことは人々も一緒に滅びてしまうことを意味していました。
このことにナウシカだけは気づいていたのです。
ナウシカはなんとか自然と仲良く暮らしたいと願い、焼き払われる腐海の中で怒りに燃える王蟲の群れに命をかけて飛び込み、
王蟲の心を静め平和な風の谷を取り戻すことができたのです。

ナウシカといった存在に依存せず、みんなで少しずつナウシカの役割を果たす愉快な活動でありたいと思います。

【２】 森の劇場プロジェクトの歩み

（約束）

2014 年　官民本気協働、津市民文化祭特別研究事業の委託を受ける。➔　森の劇場育成プロジェクト（市民活動グループ約 10 人）立ち上がる。

（＊この年の活動から発想した、地域に活きる公共文化施設の活用案を、舞台から実践提案した。実践しながら企画をつくっていけたことは幸運＊）

・夢企画①・・・展示〈山本真也作品展〉
ホール・ホワイエなどに若い世代の企画を募集して年間展示、コーディネート面白い。　←　会館側から却下（理由不明）

・夢企画②・・・日曜芸術学校<能楽体験>
自意識芽吹く 10 歳前後の若い世代に対し、驚くほど嬉しくなったり、
泣きたいほど緊張したり…自分は何が好きで何を嫌だと感じるのか？
いったい何をしたいと思うのか？といった、自分自身を探るような
経験のできるプログラムが地域の文化施設にあるといい。
教育者はただ見守り、芸術活動家はタダ自分の愛するモノのことを語り、
地域の大人が少し世話をやく、そんな空間。
←　2017 年「子ども里山そうぞう学校」として実現。

・夢企画③・・・市民コンサート<芸術祭特別市民合唱団と、うたおにの競演>
劇場法に則った（・芸術作品をつくる場。・人材をさだてる場。・地域のコミュニティーの場）企画にチャレンジ。
←2016 年、地域で伝承していける演劇作品制作へと繋がる。

・夢企画④・・・舞台芸術作品の誘致<県外からのダンス作品上演>
年に一度くらい、特別な舞台芸術や学びに出会える場があるといい。
←役割として、リージョンプラザお城ホールに委ねることにする。（2018 年に、津市文化センター等整備運営方針が整う。）

2015 年　公共事業は空白の年。「よいねポケット（よいね＝より生きることを願う、良い稲、）」と命名した小さな活動をしていた。

◆前年度研究事業から企画提案

①魅力ある芸術祭の在り方	②大人のための教養プログラムの必要性	③子どものための芸術プログラムの必要性
↓	↓	↓
里山ばんざい芸術祭	大人も里山そうぞう学校 ＊今となっては、関わる中に多く学びがある。	子ども里山そうぞう学校 子ども里山そうぞう学校・専科（卒業生活動）

◆提言書の提出

（その１）行政の中に広範囲に影響できる統括的なポジション（芸術監督のような）を。（できなければ市民主導）
↳　・この共通理解は困難！ながら地道に要求し続ける必要あり。市民活動を利用した文化政策を持つことはこれからの地方自治の大きな役割となる時代です。今年度（2020）も官民協議で要求した。

（その２）市民の中からコーディネーターを育成
↳　・活動実践の中から育成できる。→今年度　津市として認める任命を要求している。

（補足）双方の学び場を持つ
↳　・ちょっと諦めて忘れかけていた。マズイ！　一緒に正しい情報を学ぶこと大切。＊＊忙しそうで申し訳ないという考えは間違い。
＊２０１４：官民舞台上活動報告会　『一緒に本気！で考えよう　地域文化施設の役割』
＊２０１６：舞台上座談会　『津市ではじまった「地域に活きる劇場づくり」官民協働事業の可能性』
＊２０１７：官民協働の勉強会開催。津市文化創造事業を分析する。
＊２０１８・・・・・・・あ(゜o゜)！！この年から担当窓口との協議しかしていない。（注意！！）

2016 年　市民参画・官民協働として新規事業「津市文化創造事業」スタート。　提案事業を実現するための準備の年とした。
（地域に活きる芸術祭を考える勉強会）

日本のまつり文化を見直す勉強会
＊まつり、婦人会、子供会、町内会旅行・・・・軒並みなくなっている。いいのか？このままで？？

➡

現代のまつり場（一年に感謝し、更になり、次の年へ希望をつなぐことができる催し）となる舞台作品をつくろう。
津市オリジナル作品として、「コノ村『山神』伝」脚本完成

2017 年「子ども里山そうぞう学校」「大人も里山そうぞう学校」を開設。「里山ばんざい芸術祭」にてオリジナル演劇「コノ村『山神』伝」を上演　NO.4

子ども里山そうぞう学校スタート　　自然体験　や　芸術体験を共に経験し　　里山ばんざい芸術祭の舞台に立つ。

小学生を対象とした、自然体験・芸術体験・

舞台表現を融合させた半年間、

生きる力を育む、約 20 回の実体験プログラム、定員 30 名。

不特定多数の人の前で、

自分が伝えたいことは何か？

森劇スタディー（1 回/月）

＊おたのしみ勉強会

みんなの母の会や

＊食育も含めた美味しいご飯を提供する活動。

ばんざいチーム活動や

＊里山ばんざい芸術祭企画運営の活動

文化政策や劇場マネジメントのセミナーに参加

←＊スタディーで内容の共有。

2018 年　2017 年事業に加え子ども里山そうぞう学校専科（子ども里山そうぞう学校経験者継続希望者のためのクラブ活動）、創作活動のアウトリーチ事業、広く不特定多数を対象とし自立運営を行う活動への支援事業を行う。

表現クラブ

探検移動クラブ

アウトリーチ

＊小学校への「作法クラブ」講師派遣

自立運営　朝ヨガ

＊健康づくり活動

2019 年　大まかに「津市文化創造事業」を推進していくスタイルが整ったと考えた年。

・地域の課題を自分事として共有した異種混合のメンバーによる試行錯誤・創意工夫の活動継続により、社会的相続の役割を担える魅力的な地域づくりが動き始め、多くの人の利他的役割が多世代に伝搬、循環し始めていました。

・白山総合文化センターは、「教育」「福祉」「地域政策」といった社会機関として活用できる見通しが立ってきました。

・活動内容を整理すると、劇場法はもちろん文化芸術基本法、津市文化振興計画に則っており、近年重要視される SDGs、市民参画や協働、社会包摂、ダイバーシティーマネージメントといった公共文化施設の在り方を網羅していたのです。

↓　　……　ちょっと順調すぎ？？？(゜-゜)だな～。。。。

理由を分析してみると、

1）最初から官民協働として始まっていること。
市民が実践から得た情報をもとに「理想」を提案し、それを行政サイドが文章にした。実際起こった内容ながら今では信じられない協力体制が化学反応を起こし推進力になった。

2）地域に何かできることがあるとすれば嬉しいという意識を共有した、利害関係も肩書も関係ない異種混合の集まりであること。

3）最初にやるべき任務がなく、自由な発想が許されていること。

4）専門の（文化政策、劇場経営、地域活動といった）学べる機関があったこと。

などが考えられる。

2020年　2020年～4年間を、第二期目と考え、これまでのスタイルで活動を継続しながら、下記のような目標を立てた。

① 活動を通して、地域社会の一員という意識の共有を広く呼びかけていこう。（プロフェッショナル市民）

② 「文化芸術地域つくりマイスター」といった津市独自のリーダー養成と認証システムを官民協働でつくり始める。

③ 法律と照らし合わせながら、文化芸術事業の実用的な評価基準を提案しよう。

↓

新型コロナウィルス感染拡大により事業が中止となる。　　それで、一時　中断としたい。

【3】2020年度　活動計画

！？予想？！
新型コロナウィルスが「考えろ」と投げかけてきたようなこの期間、まだはっきり見えてこないけれど多くの人の中に不安や疲労の蓄積はあるだろうと思われます。
昨年までの活動を今年可能なカタチを模索しながらできる範囲で行っていくことで、活動に関わる人々のモチベーションアップや身心の開放や新しい考え方の発見となり、また活動が起こっているという事実が不特定多数の人の活力に少しでも好影響できたら嬉しいと思います。
そして、森劇自体も新しい活動の方法を模索したいと思います。

以下詳しくは、HPをご覧ください。

森劇スタディー　：毎月第四（木）を基本的に開催日とする。　・・・・・・内容リニューアルします。

◉ 気になっていること、共有してみたいことを題材として、フィールドワークプランを立ててみよう。多彩なプランの発見、企画運営の練習にもなればよいと思います。　文化政策関連でなければ・・・・とかー切心配なしです。(^-^)v　いろいろお手伝いします。(*^-^*)/

子ども里山そうぞう学校　：７月～12月の間に実施。　今年は、一般募集なし（里山学校経験者のみに案内）、コンパクトプログラムで実施してみます。

✦ 自然体験教室（単発活動）：自然環境の中にゆっくり身を置き、全身で感じて観察する経験は、生きる力の基礎つくりとなるでしょう。
✦ 舞台表現教室（連続講座）：表現の原点、日本のまつり芸能に焦点を当ててみたいと思います。（里山ばんざい芸術祭に参加）
✦ ✨new（仮）里山卒業生そうぞう活動クラブ：本来渦巻いているそうぞう力を発揮できるような空間を、と考えています。

大人も里山そうぞう学校　：７月～12月の第二・第四（土）を基本とする。

✦市民による舞台そうぞう活動：今年は特に、地球のこと、地域のこと、自分のことなどぼんやり考えながら、日本のまつり芸能に触れてみたいと考えています。
（↳　里山ばんざい芸術祭に参加）
✦山歩き発見クラブ：7～10月　１回/月　（自然を感じ自分の身体を感じとにかく歩く。子ども～大人まで、親子も参加可）

里山ばんざい芸術祭：時代に逆行しながら新しく生きることを願う、現代のまつり場となる催し。

✦ばんざい＼(^o^)／チーム（芸術祭実行メンバー）：７月～毎月第二（木）10：00～12：00を基本ミーティング日とする。
＊昨年までの森劇スタディーの、活動報告や文化政策などの情報共有はこの活動の中で行ってみます。
✦2020里山ばんざい芸術祭：本番12月６日（日）、準備日12月４日（金）/5日（土）
＊今年度、公益財団法人三菱ＵＦＪ信託地域文化財団さんより、助成事業に選考していただいています。

そうぞう活動アウトリーチ：文化・芸術そうぞう講座の出張や講師派遣

✦津市河芸公民館：声をたのしむ創作倶楽部　：１０月～12月の第一土曜日９：30～　＊既に申し込み終了

モンブランブラボー　：地域貢献型自立事業

✦ラジヨガ：２回/月の早朝　白山文化センターエントランス活用してラジオ体操と簡単ヨガで健康つくり
✦✨newの新しいカタチを模索したいと考えています。

【4】関わり方

視野は地球規模の幸福を望んでいるため、大まじめでありながら関わり方は大変ゆるく一見遊びのような活動といえます。
この活動の目指すところの景色は一人ひとり違うのだろうな、ということがわかってきた今日このころです。
大まかには、「気持ちいい風が吹いている。」とか「川の水が美しくて嬉しい。」とか「あの山の向こうまで行ってみたい。」とか「あ！笑顔になった。」といったとても抽象的な五感の喜びを共有価値としながら、自分の中にある理想の景色を探し続けていく活動といったところでしょうか？？？(*^-^*)
首を突っ込むと今まで気づかなかった面倒なことに出会います(゜o゜)、でも知らなかったでは通らない時（時代）が来ていると思います、
面倒な分納得できて嬉しくなることもあります。　ピンときたらＷＥＩＣＯＭＥです!(^^)!。

運営メンバー	活動の企画・運営に直接関わる人。	毎月、イベント案内や協力要請の案内をさせてもらいます。	会費１５００円/年 ＊芸術祭参加券一枚付 （1000円）
メンバー	企画事業の中で活動実践が可能と思われる人。		
森劇メンバー	活動説明会の内容に賛同し活動に加わってくれる人。 一年目の方、冒険・遊び感覚で。		
応援メンバー	活動には参加できないが応援するよ！という方。	2回/年、森劇通信を配信、活動内容を案内します。	
通信メンバー	「森からの便り」		会費なし

＊今年度メンバー名簿は夏ころには作成します。

別途
《運営メンバーの中のリーダー会》代表：長野多恵　代表補佐：伊藤知子、笠松智子
《津市文化創造事業の審議委員》：庄司乃ぶ代氏、井村正勝氏
《子ども里山そうぞう学校アドバイザー》：太宰久夫氏（玉川大学芸術学部教授）、後藤洋子（三重大教育学部教授）

🍃2014 年の総まとめ🍃

何もないところからみんなでつくり出す。
立場を超えて目指す目標がおぼろげに見えて、　(゜-゜)
やり遂げたい！と本気で決めればできないことは少ない。

新しいことに懸命にチャレンジするという活動が、人を勇気づける
それらはとてもたのしくて頑張りすぎないように気を付けなきゃ
いけないな～、などとも思った初年度。

🌼2016 年の総まとめ🌼

地域の潜在力と地域に暮らす人の心意気を結んで、
白山総合文化センターを、
独自の地域（たのしんで生きる力を育み、再生できる地域）
づくりに取り組める場所、　(゜o゜)
何かやりたくなる（強みを活かすのではなく、感じたことを
行動してみることができる。）場所にしていこう。
という、理念や目的を言葉にした年。

恐るおそる、文化政策だとかこれからの劇場経営といったセミナーに参加すると、
「津市ってすごいねー✋」とどこへ行っても絶賛されて驚いた。
市民活動と行政が本当に協働しようとする事業は、信じられないほど先進的なのですよ！
ということでした。　継続の中そのことも理解できました。 けれど、これからこそ
地方自治体の文化政策は潜在的な需要は増すと思います。
それから、地域の潜在力の中の人間力（良心や貢献心や生活能力）に心動いた年でした。

🌲2017 年の総まとめ🌲

「道楽でいこう」たのしむこと必須！
「赤子の心」孟子の言葉：意味の枠にとらわれない、物事をまっすぐ見つめ、
変化の兆しに敏感、余計なことに気を配らず、
夢中になる、嫌なことは嫌という、事の軽重をわきまえ
間違いを間違いと言おう。。。。🌼深い。
「五月のように」竹内浩三さんの詩：何のためにともかく生きているともかく
考えるだけでは理屈が多くなり困る　(^.^)
真を知りたければ信じよう
人は弱くてすぐ悪いことしてしまうけど
それはきわめてかなしい
人を信じよう、人を愛しよう
そしていいことをうんとしよう
五月のように青空のように愉快に生きよう。
🌼劇のテーマソングに。
「三人称視野」地球とか、世界とか、地域とか、広い範囲に対して何ができる・・・・？

この年は、一気に企画事業が始まったから、
大量に実感を得た年でした。
・頑張りすぎない合言葉「道楽でいこう(*^-^*)」
・子ども里山そうぞう学校のスタッフの心得的存在になった
孟子の言葉だけど、いろんな子どもたちと向かい合うことで
実感を共有できた。
・大人が死ぬまで愉しく生きると決めて楽しむことが大切やね、
と共有した詩。
・月に一日くらい、小さな生活範囲から飛び出して夢を見よう。

自分の生活範囲の狭さや、社会への責任のなさ、、、、いろんな
辛いことも実感を共有した年。

🐝2018 年の総まとめ🐝

「人ひとりがコーディネーター的思考をもって
全身で感じることをたのしみ、考え続け、勇気をもって伝えてみよう。」

本居宣長さんの生き方が参考になった。　(`・ω・´)
プラス思考（いつも夢や目標をつくるのはたのしい）
集まることをたのしむ（慶びの円居）・・・共有して高まり合うのは気持ちいい。
＊よくこういった活動の良さとして、「居場所つくり」とか「仲間つくり」とか書いてあるけど、自然にそうなっていく活動であることがよいだ、とわかった。

この年は、改修工事のため劇場が使えなくて、企画事業の
進め方につて、いろんなところで意見の相違が起こった。

問題が起きたとき、なんとか問題が起きないようにするのではなく
ーにもどって目的を確認し合うことが大切だという当たり前のこと
ながら大切な経験ができた年だった。

🦏2019 年の総まとめ🦏

「トライ　＆　エラーを共有しながら、
それぞれのプロフェッショナル市民を目指ざそう。」
＊プロフェッショナル市民：プロ＝フロント＝前/フェス＝語る、　(・∀・)
前に向かって語る、言葉に責任を持つ人。と公共政策の専門家
中川幾郎さんの講座の中に出てきた言葉。

外部から高評価を受けた年となりました。
森劇は大きな組織にはなれない活動団体。
でも、これからの社会にこそ必要な活動。
ならば枝分かれして活躍できる体制（コーディネーターの輩出）
つくり始めよう。　それから若い世代が芽吹いてきている✨✨
というわけで、ＮＰＯ法人格取得しておきました、という年でした。

2019 里山ばんざい芸術祭

「遊びをせんとや生まれけむ　戯れせんとや生まれけむ
遊ぶ子どもの声聞けば　わが身さえこそ揺るがるれ」　平安末期の歌集「梁塵秘抄」より

日本の風土や風習を表現し受け継いでいく、現代のまつり場としての芸術祭になりつつある
里山ばんざい芸術祭。　この年、上の詩に当てはまるような空気感があった。(^-^)

笑ったり泣いたり笑ったり怒ったり笑ったりしながら、今年も何かいいことしましょう(^^)/